

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム つどい花園町

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600336		
法人名	有限会社 つどい		
事業所名	グループホーム つどい花園町		
所在地	〒024-0035 北上市花園町2丁目2-25		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの要望には応えられるよう心掛けている。また、安心して、楽しく生活できるよう支援している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR北上駅より徒歩20分程度の中心市街地にある1ユニットの事業所である。近隣には、幼稚園、小中学校、百貨店を含めた商店街や飲食店、神社や公園の他多数の医療機関が点在しており、社会資源に恵まれた環境下にある。事業所では特にレクリエーション活動に力を入れており、系列のデイサービスからワゴン車を借り上げ、月1、2回の外出レクやドライブレク等の事業を行っていた。また、地域自治会の文化祭への参加や火防祭、花魁道中の見学、敬老会には地元子ども会の児童と交流を図るなど、町内会に加入し地域との日常的な交流に努めている。コロナ禍のこの1年、縮小せざるを得ない活動もあったが、来春からは農家出身の利用者を対象にミニ菜園づくりの新規企画もあためている。協力医療機関の医師等の支援により、重度化や看取りの支援も行っており、入居後一定期間を経過した利用者家族に再度の意向確認と、対応する職員の研修強化を計画している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム つどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、職員一同いつも心掛けている。	職員で考案した「毎日楽しくほがらかに」サブタイトル～笑顔の絶えない思いやりのある家を目指す～という理念は、職員への浸透を意識し、ホール内の申し送り場所から見える壁に掲示している。今後は利用者からも見える位置に掲示予定である。管理者は、職員への周知とケアへの反映の必要性を認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、運営推進会議や地域での交流会への参加はできていないが、運営委員会へは運営に関しての意見は頂いている。	昨年度までは、地域や市で開催される「文化祭」への参加、「火防災」「花魁道中」の見学に出かけていた。敬老会には、地域の子供会から10名程度の児童が来所しゲームやプレゼント交換等の交流を行ったが、今年度の傾聴ボランティアの来所や和尚さんの講話会は自粛している。町内会に加入し、市の広報も届いているが、近隣との回覧板受け取り、受け渡しは未だ出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、施設へお呼びしての会議は開催できていないが、2カ月に1度、書面を送付し、意見を仰いでいる。	構成員として、地域の区長が2名、地域の住民代表が2名、市役所職員、訪問看護ステーション職員、利用者及びその家族等が参加している。コロナ禍前の会議は事業所のホールで開催し、利用者も当日の当番者が参加している。コロナ禍の今年度は、災害時の近隣支援を中心に話し合う予定であったが、書面開催とし、意見は特に出されなかった。近隣の系列グループホームの会議にも会場を提供し、委員は共通で一部、二部と時間を設定し、それぞれの開催としている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム つどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は、減算対象になった時期があったため、その際、助言をいただいた。	運営推進会議委員として、昨年度までは地域包括支援センターから、今年度は長寿介護課より委員をお願いしている。今年度、介護支援専門員不在の時期があり、手続や報酬取扱等について指導を仰いだ。生活保護の受給者はいないが、コロナウイルス関連の調査照会や市の集団指導等には管理者が出席している。地域包括支援センターからは、空き情報の照会が入る等、日常的に連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施している。昨年同様、スピーチロックについて目標を掲げ、職員一同日々言葉遣いには気を付けている。	現在、問題行動や状態不穏のある利用者はなく、管理者は、日常のケア場面でスピーチロックに留意するよう声がけをしている。玄関、職員玄関ともに日中は施錠せず、屋外に出かけたい利用者とは職員と一緒に出かけている。居室でのセンサー設置にも家族に同意確認をし、利用者も3名のうち2名の方は「ベッドからずり落ちると大変だから」等の説明で納得されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、職員間で日頃から声がけに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な入居者様は現在なし。昨年研修は参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に明るく説明している。契約時以外にも、家族様から何かと意見がある場合は説明し、回答している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々生活している中で入居者様から要望等があれば、その都度、ノートへ記入し職員間で共有している。また、家族様からは面会時などにご意見があれば、職員間で相談後、共有している。	昨年に比べ、コロナ禍での面会制限もあり、ご家族との連絡や面会が減少している。電話連絡に加え、遠隔地の家族を含め、管理者は3家族とメールでやりとりをしている。懸案となっていた家族アンケートや、職員の異動報告、職員紹介は順次着手予定にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催し、意見交換している。	職員会議は、月末に管理者と介護支援専門員が揃う日勤帯に開催している。欠席の職員は、会議録で後日確認をしている。エアマットが外れた為に床ずれが出来た利用者に対し、2時間おきの体位交換とオムツ交換を徹底するとケアの統一提案も会議時なされている。管理者も夜勤勤務があり、日常的にゆっくり職員や代表者との話し合いが出来ない事が、当面の課題となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自特性を生かし、勤務表を作成している。職員間で協力しあい、モチベーションアップを図るよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの経験に応じて、利用者に合ったケアを共有したり、指導している。研修は新型コロナウイルスの影響で積極的には参加できず、施設内で、なにかあれば、その都度簡単な勉強会は開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々での交流はあるが、施設訪問は行っていない。社内では、他事業所の管理者同士での交流は多少あり。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や新規入居予定の方が見学にいらした際は、親しみやすい態度・表情で接し、要望等を聴けるよう心掛けている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム つどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にお話を聴く機会を作り、不安等を傾聴できるような心掛けしている。面会時等でも相談できるようにはしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学、事前訪問・申込時に現在の状況・不安や困っていることを伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活で生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	申込時に今までの生活状況を伺っている。家族様の意向も伺い、定期受診は家族様に協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で面会と外出の規制はかけているが、通常であれば、外出レク、外食レク等で外出の機会を増やしている。面会も友人等の受け入れもしている。	面会制限下ではあるが、家族対応の受診は定期的に家族と会える機会となっている。また、定期的に来所される医師や看護師も、馴染みの関係者となっている。通常時であれば、家族の他に実の妹さんや友人が来所していた。百貨店への買物に1名、外食や床屋には5、6名が出かけていたが、今は自粛している。管理者は、今後のより良い支援のため、利用者にとっての重要な人や場所について、介護支援専門員の協力も仰ぎ、再確認が必要と認識している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置をお話が合う方々同士になるように配慮している。会話困難の場合は職員が間に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなってしまい、契約終了している利用者様の娘様が施設で使うゴミ箱用の広告を寄付してくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に意見を伺うよう心掛けている。困難な場合は、日々の言動等で把握できるよう心掛けている。	1名構音障害で言葉が聞きとりにくい利用者には、ゆっくり丁寧に聞きとることで意向を確認している。現在入居中の利用者は、全員意思表示ができる。困難な利用者の思いや意向の把握には、さりげなくじっくり観察しおおよそ何をしたいかを把握してから、声がけをして確認をしている。管理者は、聴き取り上手な介護支援専門員の技量を他職員に習得させたいと思案している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室にご自分や同居していた家族、遠方に住まわられているお孫様の写真を貼っている。また、入居時に生活歴等を聴くようにはしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活している上で、一人ひとりの言動等を観察し把握するように努めている。気づいたことがあればノートへ記入している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれの経験に応じて、利用者にあったケアを共有したり、指導している。研修は新型コロナウイルスの影響で積極的には参加できず、施設内で、なにかあれば、その都度簡単な勉強会は開催している。	新規入居利用者の状況確認は、管理者と介護支援専門員が行い、双方で協議の上で介護計画の原案を作成し、職員に周知している。モニタリングは通常3ヵ月毎に介護支援専門員が行い、介護計画原案を作成している。原案を検討する職員会議では、サービス内容の終了や継続、ケアのアイデア等の意見が出されている。家族にはプランがまとまった時点で説明して了解を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、申し送り、利用者ノート、モニタリング表への記載で共有し、ケアプランの反映するようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう心掛けている。			

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム つどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加は積極的に参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けていただけるよう、身体状況を把握して家族様へ現状をお話し受診へ行っていただいている。必要があれば文章作成し、医師へお渡しして頂くようお願いしている。状況に応じて、訪問診療へ移行している。血圧なども記録し、報告している。	入居前のかかりつけ医を受診している利用者が4名、その他は、月1回の訪問診療を受診している。体調を崩し入院をきっかけに訪問診療に切り替えた利用者もいる。コロナ禍以前は、月2回の訪問診療であったが、感染防止策で月1回の対応となっている。入居前からのかかりつけ医受診には家族が対応しており、皮膚科や脳神経外科を受診している利用者がそれぞれ1名いる。コロナ禍で、柔軟な受診対応をしている主治医もあるとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や不明・不安時は随時連絡や相談し助言をいただいている。 受診時にも情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には 病室訪問を行っている。主治医・病院看護師から状況確認している。退院後の生活も退院前にカンファレンスを開き留意点を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の在り方についてお伺いしている。入居し数年たっている方が何名かいらっしゃるため、改めてお伺いする予定だったが、新型コロナウイルスの影響で面会も減少してしまい、1名しか聞いておらず。 また、重度化した際は、再度話し合いを設けている。本人や家族の意向に沿えるよう心掛けている。	重度化看取りの指針を作成し、これまで2名の看取りを行ったが、現体制で関わった職員が不在であり、管理者は職員の研修強化が必要と認識している。長期入居者4名中1名のご家族の意向再確認が出来ており、今後は介護計画の見直し時期や、かかりつけ医受診の機会を捉え、順次家族の意向確認の予定としている。外部の研修機会が少ない中で、系列のグループホームでの研修機会が確保できる利点がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルや事故対応マニュアルは作成しており、職員で共有はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを作成している。 地域との協力体制も強化したいところでしたが、行えず。消防訓練は年2回行っている。	ハザードマップ上では、河川洪水地域との境界線付近にあり、非常時に備えて災害対応マニュアルを作成している。年2回の避難訓練を行い、そのうち1回は消防署が立ち合っている。万が一の場合、近くにある系列病院の2階が避難先になっている。区長から訓練に「参加したい」との意向もいただいている。	災害は、昼夜の区別なく発生する可能性があり、利用者への影響を考慮した上で、段階的に夜間想定、薄暮又は夜間の時間帯での避難訓練を計画的に実施し、地域の協力も含め、災害への備えを拡充されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に適した支援をできるように心掛けている。	入浴や排泄行為等、プライベート空間で羞恥心を伴う介護の際には、特に利用者の尊厳やプライバシーの配慮に努めている。小声でのトイレへの誘導や仕切りのない居室内のトイレや入口にはカーテンを活用している。つい命令口調気味に話しかける職員には、気づいた都度注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情、言葉の強弱等で読み取れるように心掛けている。行動する際に選択していただくよう会話で工夫はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日時の指定以外は、個々に合わせて希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと、衣替えや衣類の購入をしていただいている。入浴時の衣類準備の際もご自分で選んでいただくこともある。行事レクではお化粧も行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	約2カ月に1回の手作りおやつ、行事レクにて郷土料理を提供している。簡単な食材の下処理や茶わん拭きも行っていただいている。	調理は2名の調理員が交代で行なっている。近隣のそば屋さんから好みのそばの出前を取ったり、郷土食では芋の子汁やひつまみ等を提供している。食事の下ごしらえは主に女性利用者が、週に1回もやしのひげ取りを行い、後片付けも役割分担により茶椀拭きやお盆拭きを行っている。干し柿作りの皮むきには男性利用者も1名参加している。自宅で使っていた箸や湯のみ茶碗を使い、毎日の食事やおせち、七草かゆ、ちらし寿司等の行事食も楽しんでいる。肉や魚が好まれ、好評なカレーを週に1回は提供し、納豆が嫌いな利用者には、温泉卵やふりかけで代替えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の希望の量や食事量に合わせて、提供している。 平均水分量を摂取できるよう、牛乳やジュースなどで種類を増やし、飽きないような様々な飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時口腔ケアを施行している。就寝時には義歯洗浄を行っている。必要に応じて訪問歯科の協力も得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツ使用者はなし。夜間のみ使用者が2名。日中は排泄板を確認し、トイレ誘導を行っている。	トイレは、各居室と脱衣所にも設置されている。排泄板(チェック表)の他、食事前や就寝前等には居室へ誘導し、夜間は利用者のサインや声がけや誘導で対応している。安易なオムツ使用ではなく、入院を契機に状態が低下した利用者であっても、回復の状況に応じて見直しをしたり、尿意の有無等で排泄用品の使い分けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や乳製品や水分、バランスの良い食事提供で自力排便できるよう心掛けている。また、主治医より、下剤の処方はしていただき、排便コントロールしている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム つどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		冬場には柚子湯で香りから季節感を味わっている。脱衣所と浴室は床暖房となっており、冬場も快適に入浴が出来る。また浴槽出入り口や洗い場には、目立つ赤の手すりが多数取り付けられてあり、転倒やヒートショック等の事故防止と利用者の移動の自立にも配慮されている。身体機能が低下しても湯船につかり入浴を楽しめるよう特別浴槽も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇時間や体操の声がけはするが、無理強いはせず、個々の生活習慣に合わせ、休みたい方には休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は職員で共有・見直ししている。副作用が見られた場合は、主治医又は看護へ相談・報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味レク(縫物、トランプ、塗り絵)や散歩等のレク活動の他に、役割として、洗濯物干し・たたみ、茶わん拭き等で気分転換として提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で家族様との外出、外泊は行えなかったが、施設でのドライブとして、花見・紅葉を楽しまれている。マスク着用での散歩も少しだけ行っている。	昨年度に比べ外出機会は減少したが、系列のデイサービスのワゴン車を利用し、春の花見や秋の紅葉見学に出かけた。散歩が習慣の利用者とは、事業所周圍1周の散歩を行っている。近隣旧町から入居した農家出身の利用者も多く、来春は屋外にミニ菜園を準備し、定期的に屋外への活動を促す計画もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様からは本人で管理したいという希望はなく、施設で預かっている。何か購入の際はそこから支払いしている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム つどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話は時間帯にもよるが、希望があれば対応している。携帯電話の持ち込みも許可しており、現入居者様でお持ちになっているが、最近では電話をしたいと申し出ないため、施設で預かっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、貼り絵などの作品を展示している。	ホールには加湿器やエアコンが設置され床暖房となっている。壁には、お正月には富士山、12月にはクリスマスツリー等、利用者が手をかけた絵が貼ってある。共用スペースには、食事や創作活動を行う丸いテーブルが3つ配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本棚の設置により、読みたい本があれば読み、カラオケもあるため、歌を聴きたいと要望の時にはカラオケを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご自分の昔の写真を持参して頂き、飾っている。 使い慣れた布団などの寝具も持参されている方もいる。	各居室には、ベッド、洗面台と鏡、トイレ、タンス、エアコンが備付けられており、壁にはカレンダーや配偶者や家族の写真があり、透明の衣装ケース等を持ち込んでいる利用者もいる。入居当初にテレビを持ち込んだり携帯電話を利用していた利用者も、徐々に使用頻度が低下し、現在利用者はいないとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床には可能な限り物は置かず、安全に歩行できるよう心掛けています。各居室には許可を得て、名前を掲示しご自分でわかるようにしています。		